

商学研究所創設40周年記念公開シンポ

ポイントカード活用戦略 中村博教授が講演

商学研究所創設40周年記念公開シンポジウム「コラボレーティブCRM(カスタマー・リレーションシップ・マネジメント)～メーカーと小売業の効果的協業マーケティング～」が、11月19日に神田キャンパスで開催され、小売業界で普及している、ポイントカードを活用した顧客獲得戦略について論じた。



上田和勇商学研究所長のあいさつの後、中村博商学部教授が「コラボレーティブCRM—顧客データを活用した小売業のマーケティング変化とメーカーの対応」と題して講演＝写真。価格訴求を主にした小売業の販売戦略が見直され、ポイントなどの特典をつけたカードを発行。消費者の購買履歴を記録し、分析したCRMが展開されている。これをメーカー・小売業が活用、協業すれば顧客に的確にアプローチする販促展開を打ち出すことが出来ると提言した。

このあとドラッグストアのセイジオー・関内弘幸営業本部長が自社のカード展開を、面谷勝己・日清食品営業企画部次長がカードプログラムによるマーケティングを、渡邊克芳・ライオン流通開発部副主席部員がカテゴリーマネジメントの現状と課題解決についてなど、小売業とメーカーの先進的な取り組み事例が報告された。

企業の担当者など100人を超える参加者がCRMの実効性や、協業の可能性など熱心な質疑を展開し、最後に中村教授がまとめの提言を行った。

なお、同研究所では、「多摩区3大学」連携事業の一環として、12月から登戸・向ヶ丘遊園駅周辺住民のニーズ調査と交流会を実施し、大学生の活力を地域社会に生かす方法を検討している。

会計学研究所主催「税理士の役割と将来」

卒業生5人が語る

会計学研究所(柳裕治所長)主催の講演とパネルディスカッション「会計専門職の現状と課題—税理士の役割と将来—」が11月21日、生田キャンパスで行われた。

専修大学会計人会(高橋貞雄会長)と、日本税理士会連合会(昨年からの寄付講座を実施)の共催によるもので、5人の卒業生税理士が、約300人の学生に税理士の社会的役割や今後の展望などを紹介した。



▲5人のパネリストと司会の柳所長(右端)

高橋会長(昭37商経)は多くの会計人を輩出し「計理の専修」と呼ばれた本学の商学教育の歴史について、吉田伸江氏(昭54院商修)は、高度な知識と経験を生かせる社会的役割を、鳥居勇氏(昭58商)は国境、世代、性別を超えて活躍できる魅力を、榎本恵一氏(昭61会計)は、ネットワーク社会に対応し、中小企業のコーチ的役割やコンサルティング業務を果たしている現状を、宮川雅夫氏(昭53会計)は、会計専門家であると同時に法律専門家としても今後、活躍の場が広がっていくことを語り、後に続く後輩たちを激励した。

エクステンションセンター公開講座

相模・武蔵の「まつり」探求 延べ1000人を超える受講者

エクステンションセンター公開講座「まつりで紐とく相模・武蔵の歴史」が生田キャンパスで開かれ、延べ1181人が受講した。

日本人の生活のなかに生きてきた「まつり」が「心の故郷」として人々を結び付け、芸能・演劇・文学・芸術を生みだしてきた背景を探り、相模・武蔵の歴史と祭りがもたらす姿を探求した。

10月14日には矢野建一学部長、館鼻誠非常勤講師、28日には土生田純之教授、荒木敏夫教授、11月25日には青木美智男教授、館鼻講師(以上、文学部)がそれぞれ講演。



最終日の青木教授は「大山参詣と江戸っ子」と題し、江戸時代の生活・文化とそれに伴う大山詣について講演した=写真。

江戸時代が現在の日本人の暮らしの原型であり、幕府は、士農工商という身分と職業が一致した職分制国家を誕生させたが、人々は暮らしのなかに変化を求めるようになり、さまざまな年中行事を楽しみ、さらに行楽という心の癒しを寺社への参拝という形で達成しようとした。丹沢山地の雄峰・大山は「招福除災」の靈験あらたかな山として江戸っ子に信仰されて大いに賑ったが、それら庶民の生活信条等について、当時の絵や史料をもとに考証した。

公開講座 文学の森

「非日常から生まれるもの」11月11、18日に4教授が講演



川上隆志助教授

エクステンションセンター公開講座「文学の森」が11月11、18の両日、生田キャンパスで開催された。今回のテーマは「日常の中の異空間」。18日は2講演が行われ、延べ100人の聴衆を前に川上隆志助教授と板坂則子教授が登壇、「本」を取り巻く日常の中の異空間を解き明かした。

川上助教授のテーマは「編集者の日常と非日常—作家と読者をつなぐもの—」。出版企画を立て、原稿を依頼し、著者を背後から支え、本にまとめ上げる出版編集者の「日常」をいかに「非日常」に変え、時代をリードし読者に受け入れられる出版企画を編み出していくか——20年以上にわたって岩波書店の第一線編集者として活躍した経験を基に語った。

「素人の視点を持つプロであれ」「ベストセラーは盲点を突くことから生まれる」「優れた企画は個人や会社を超えて生きる」など新しい価値を創造する編集者の志とはなにかを挙げてみせた。

板坂教授は「仮想世界への旅立ち—女性が本を読むということ—」を掲げて講演。江戸時代の浮世絵に描かれた本を読む女性の姿から、女性たちにとって読書は何を意味するのか。読者する女性たちを社会はどのように受け止めたのか。江戸の初・中・後期に分けて分析した。

11日は柘植光彦教授が「TVドラマの異空間—『冬のソナタ』の周辺—」、小山利彦教授が「源氏物語—男踏歌の異空間—」と題して講演した。

日銀審議委員須田美矢子氏が特別講義

11月10日、作間逸雄経済学部教授担当の教養科目「経済の世界」で、日本銀行政策委員会審議委員の須田美矢子氏が金融政策について特別講義を行った。

須田氏は1979年から90年まで本学で教鞭をとり、2001年から日銀審議委員。ゼロ金利政策や量的緩和政策が採用された難しい時期に政策委員会の意思決定に加わった。今年4月に再任され、過去の特例措置で再任されたケースを除き、実質的に初の再任となり、話題となった。

講義は、金融政策が決定されるしくみや金融政策を巡る最新の情勢を平易に解説するもので、812号教室を埋めつくす学生が熱心に受講した。

講義後には、社会科学研究所主催の研究会と懇談会が開かれた。

ネットワーク情報概論

活躍中のOB3氏が講演

江原淳ネットワーク情報学部教授担当のネットワーク情報概論で卒業生が講義を行い、本学での学びをどう生かしているかを1年次生に示した。

11月21日には全日本女子バレーボールチーム初の専属アナリストとして、世界選手権6位に陰ながら貢献した渡辺啓太さん(平18ネット情報)が登場。「『情報』をバレーボールに生かしたい」とAO入試で入学し、学生時代からアナリストとして活動していた渡辺さんは「収集、分析したデータをどのタイミングでどのように伝えるか」といった試合中のリアルな状況を話し、「日本ではまだ確立されていないアナリストの先駆者として、道を作りたい」と抱負を語った。



尾崎英二郎さん

同28日には国際俳優として活躍の尾崎英二郎さん(平3経済)が講義。尾崎さんは12月9日公開の話題作『硫黄島からの手紙』(C・イーストウッド監督)に出演、撮影中のエピソードやオーディション制度、「リアリティの対価」などハリウッドと日本との映画製作上の違いについて語った。

12月5日は(株)エヌシーネットワーク代表取締役の内原康雄さん(昭63経営)が講義した。

やさしい英語による経済学講座



ブレナン教授

シリーズ「やさしい英語による経済学講座」(第129回国際交流特別講演会)が11月18日から生田キャンパスで始まった。

講師は国際ビジネス戦略が専門のルイ・ブレナン経営学部客員教授(アイルランドのダブリン大学トリニティカレッジ経営学部教授)。

初回は聴衆53人を前に、アイルランドの歴史について講演した。講座は毎週土曜日、12月16日まで続く。



カーヴァー教授

また同シリーズの第128回講演会も9月30日から10月28日まで生田キャンパスで開催され、講師のテレル・カーヴァー経済学部客員教授(英ブリストル大学政治学科教授)が担当した。

《専修人の新しい本》

おまけより割引してほしい

徳田 賢二著

ゼロ円の値ごろ感とは？

なぜおまけより割引してほしいと思うのか？ 意識的にせよ無意識的にせよ、商品の価値にどれだけの費用を払うべきか天秤にかけた結果で、「値ごろ感」の有無は生じる。

本書はその「値ごろ感」が生み出される仕組みを解き明かし、さらには、ベストセラーがベストセラーたる理由、衝動買いやついで買いをさせられてしまう仕掛けなども豊富な事例とともに解説する。

「お買い得！」と感じ、商品に思わず手が伸びる瞬間の心の仕組みを経済学と心理学で解き明かし、「一つでも多く買わせたい」売り手の仕掛けどころも見破ることができる。

買い手も売り手も必読の経済心理学入門である(筑摩書房・本体700円＋税)。

著者(とくだ・けんじ)＝経済学部教授。担当は流通経済論・地域経済論。



善と悪 — 倫理学への招待

大庭 健著

本書は、「道徳的に見て善い・悪い」という述語は、ものごとに備わった客観的な性質を表すのだろうか？ という、もっとも基本的な問(とい)に焦点を合わせ、ものごとの善悪を見極める基準となる「道徳原理」はどのようにありうるのだろうか？ という倫理学の中枢を扱っている。ソクラテス以来の大問題を最新の分析哲学の手法を用いて論じているが、「人生、どう生きればいいのか？」という一人称の問を念頭に書かれているのが特徴である。

「よく生きる」ための倫理学への手ほどきとして、また、日ごろ、なにげなく下している自分の道徳判断と照らし合わせながら読んでいただきたい(岩波書店・本体740円＋税)。

著者(おおば・たけし)＝文学部教授。担当は倫理学概論ほか。



最終講義のご案内

受講生以外の方、卒業生もご自由にご参加ください。

(学部順)

▼吉家清次経済学部教授

(二部)1/10(水)6時限・神田301号教室

(一部)1/15(月)1時限・生田114号教室「比較経済(学)研究の軌跡」(私的なメモランダムI・II)

▼櫻井通晴経営学部教授

1/15(月)2時限・生田813号教室「専修大学での教育、研究、学内行政、社会活動の38年間」

▼松原成美商学部教授

12/21(木)3時限・生田114号教室「簿記・会計教育45年を顧みて」

▼青木美智男文学部教授

1/12(金)4時限・生田814号教室「一茶と牧之の作品から読み取る時代像」

▼坂本實ネットワーク情報学部教授

12/20(水)5時限・生田133号教室「『数学モデル』—マセマチカルモデリングをめぐる—」